



学童保育指導員の身分は、 「パート」「臨時」では成り立たない！ — 正規職員の配置を —

○学童保育は放課後の生活を丸ごと受けとめる場所
仕事をしているなどの理由で、子どもたちの放課後の生活の面倒を見られないために、託す場としてつくられたのが学童保育です。

かつて、子どもたちの生活は地域の中で支えられてきました。しかし、今日「地域の教育力」が減退しており、新しい育ち合いの場を作り出すことが求められています。学童保育はその一つなのです。

○放課後の生活を保障する指導員の役割

学童保育に子どもが元気に通い続けてこそ、親は安心して働き続けることができます。建物を用意し、人（職員）を配置するだけで、即放課後の生活が守られるという訳ではありません。

子どもたちの学校外の生活は裏面でご紹介したとおり、たくさん内容が詰まっています。しかも、学童保育は「労働等により昼間家庭にいない」親に代わって、その生活のすべてを支えなければなりません。まして、様々な子どもが通う集団生活です。学童保育では、自由な生活の場を保障しつつ、異年齢集団（一年生から場合によっては六年生まで）としての生活が成り立たなくてははいけません。

子ども自身が学童保育を「学校外の拠り所」として思えるような学童保育の内容をつくらなければ、通い続けることは難しくなるでしょう。

○指導員に必要な専門的な力

学童保育の役割が果たせるように、指導員は次のことができなければなりません。

- ① 一人一人の子どもをよく理解している（子どもの心と体のことをしっかりと把握する）。
- ② 一日無理なく過ごせるように、見通しを持って学童保育の生活を組み立てることができる。
- ③ 遊びや工作など、子どもが楽しく過ごせる工夫ができる。
- ④ 友達の中で、豊かな関係が広がるように援助できる。
- ⑤ 子どもたちの様子を父母に伝え、子育てをすすめるパートナーとしても話し合う。

こうした力を備えるためには、「研修」と「経験の蓄積」が絶対に必要です。そして、指導員の安定的な労働条件と勤務体制、研修制度などの保障をすることが出発点なのです。「パート」や「非常勤」などの不安定な労働条件では指導員として長く働き続けることは難しく、子どもたちの放課後は守れないのです。

船橋市学童保育連絡協議会
船橋市学童保育指導員労組

学童保育に 子どもの生活丸ごとキョツ!

児童福祉法では、「適切なあそび及び生活の場
を与え」と位置づけられています。
放課後の生活には、様々な要素がキョツとつま
っています。

